

**平成21年度「市政懇話会」
第2回「鳥取市版アジアゲートウェイ構想」部会議事概要**

日 時：平成21年11月17日（火）15：10～16：00

場 所：鳥取市役所本庁舎4階第4会議室

出席者

【委員】兼田肇委員、川上一郎委員、清水昭允委員、田中仁成委員、山本大順委員

【鳥取市】大田経済戦略課長

【事務局】平田

【オブザーバー】ジェットロ太田所長

部会長あいさつ

本日は、ジェットロ太田所長にもお越しいただいた。ご助言をいただきながら有意義な意見交換会としたい。

意見交換

オブザーバー

- ・今のDBSクルーズの状況は、境港～東海間は21往復。東海～ウラジオストク間は16往復。台風以外での欠航はなし。夏場は300～400人、9月に入ってから100～200人である。
- ・多いのは朝に来て、夜に帰る日帰りパターン。大山観光関連が一番多い。これからは3、4泊してもらえるようなプランを組み立てることに力を入れることが必要。

委員

- ・東部圏域の方にいかに韓国・ロシアに目を向かせるか。
- ・貨物の輸送は非常に苦しい状況。そもそも、荷物を県内だけで十分に確保できるのか。海外で売れるものがあるのかをしっかりと調査することが必要。
- ・観光については、この部会で観光ルートについて話してもいい。
- ・大学生（鳥取大学、環境大学）の夏休み期間等に交流をしてみてもは。きっかけとしては面白い。

委員

- ・飛行機がある中で、あえて船に乗ってもらうには、洋上セミナー等、乗船時間を有効利用してもらう工夫が必要。
- ・食材については、出す手立はあるが受け入れる手だてがない。

オブザーバー

- ・海外に農産物を輸出するには、現地規格をクリアしなくてはならず、ロシアはそのハードルが高い。手続きも日本国内ではできない。中国、韓国への輸出を考えるにあたっては、商標権の問題に留意する必要がある。
- ・台湾は現地規格が緩く、農産物を手頃な価格で販売できる。

委員

- ・青森の片山りんご農園は成功している。りんごは日持ちするという点で優位性がある。
- ・ロシアの農作物は、日本のものに比べて、大きさ・食味の点で劣るため、日本産品はロシアの富裕層に売れるはず。
- ・富裕層を考えると今後のターゲットは中国か。

委員

- ・中国では内陸部まで開発が進み、低所得者層が減り、中間者所得者層が増えた。これにより、中国国内での消費の伸びが予想される。ロシアも原油の開発が再開されたことで所得が増え、同様の状況が予想される。

委員

- ・近年、県内における韓国人の宿泊客が減っているのは、発着が岡山でなされるようになったため。観光施設、宿泊施設がアジア各国の旅行客を視野に入れる必要がある。県内にある中国、韓国関連の観光資源を発掘し、整備することも検討。

委員

- ・地産地消は、鳥取市の人口が増えない限りは頭打ちになる。
- ・規格品以外も売れるようにして、生産者の利益を増やすこと。
- ・日本の農産物は、他国にとっては高価で大衆向きではない。売ってみて、食べてもらって、評価を受け、それをどう分析するか。そして、いかにして次の段階に進むかが大切。

委員

- ・鳥取市がゲートウェイなのか、境港がゲートウェイで鳥取市は通り道として利益を享受するのか。

事務局

- ・当面は境港市がゲートウェイであるが、最終的には鳥取市をゲートウェイとしたい。

委員

- ・チャンスは逃してはいけない。明確なビジョンが必要である。

委員

- ・観光客が飛躍的に伸びる今がチャンスである。

委員

- ・次回は1月20日。テーマを産業振興、観光振興等にしばっての意見交換を行いたい。

閉会